

藤香会だより

第25号
平成30年7月1日発行
発行者
藤香会事務局
092-724-0007
発行責任者
毛屋 嘉明

平成30年度総会が開かれました



山崎 拓 会長

1. 主な決定事項

(1) 新役員

- | | |
|-------|-------|
| 名誉顧問 | 黒田長高 |
| 会長 | 山崎 拓 |
| 顧問 | 鈴木襄二 |
| 副会長 | 毛屋嘉明 |
| 事務局長 | 田島満行 |
| 事務局総務 | 西田経敏 |
| 研修 | 田中崇和 |
| 広報 | 天本孝久 |
| 会計 | 浜田泰祐 |
| 理事 | 原 俊樹 |
| | 高倉照矢 |
| | 三野原信二 |
| | 郡 基博 |
| 監 事 | 馬頭徹夫 |
| 事務局員 | 松尾 等 |
| | 田中雅美 |

(2) 年間行事

主な行事としては、歴代藩主の法要と社参詣のほか、9月14日(金)午後1時30分からの歴史勉強会では太宰府天満宮欄直の味酒安則氏をお招きして福岡市博物館で「黒田長濤公と明治維新」と題して講演を行う予定です。また10月の史跡めぐりでは太宰府を中心に幕末激動の時代を振り返る予定にしています。

2. 卓 話

演 題「黒田家と藩校修猷館」

修猷館同窓会会長
川崎 隆生氏



総会終了後は修猷館同窓会会長の川崎隆生氏(西日本新聞社代表取締役会長)が「黒田家と藩校修猷館」と題して講話をされました。

川崎氏は黒田藩の儒学に触れ、朱子学の竹田定良と古学派の亀井南冥の儒学の双壁が9代藩主斉隆公の命によってそれぞれ甘棠館(西学問所)と修猷館(東学問所)を開設・開学したことを説明されました。その中で修猷館は幕末まで続き、明治になって一時途絶えたが、11代藩主であった黒田長濤公や金子堅太郎らの厚志によって再建され、教育の自主自立と人格の高揚、完成に向けた基礎的な学習は今もなお続いている旨、説明をされました。

如水公415回御忌法要

命日の3月20日小雨模様の中、崇福寺で如水公の法要が執り行われました。

黒田長高様はじめ会員64名が方丈での岩月海洞老師の読経の中、焼香をいたしました。焼香終了後は黒田家墓所に向かい如水公墓前で再び焼香を行なって参詣を終えました。法要の様子は西日本新聞の3月21日付朝刊にも掲載されました。

この法要に先だつて3月18日(日)に会員45名が墓所の草刈りや墓石花活けの清掃に汗を流しました。

その後、タカクラホテルに場所を移して長高様歓迎の懇親会が和やかに行われました。いつもながら長高様と会員の懇談、会員同士の交流と話が弾んでいました。

忠行公の365回御忌法要

命日の2月12日朝から冷え込む中、11時から墓所のある東長寺で第365回御忌法要が営まれました。長高様の臨席を仰ぎ、賛助会員3名を含む会員58名が参列しました。藤田紫雲老師の読経の中、長高様、山崎会長、毛屋副会長に続いて、会員の焼香がありました。終了後は会員太田和孝さんの「光之公の小石原藩窯について」と題して、3代藩主光之公が小石原に焼物窯を作ったこと、大田さんの敷地内にある窯跡が史跡に指定されたことなど、また大田さん自身が「日本桜の会」をはじめ桜の苗木を贈るボランティア活動をされていることなどを話されました。



忠行公法要で焼香する会員

長高様が「博多どんたく港祭り」に参加

5月3日、4日に、福岡城市民の会が主催する福岡城演舞台のためにご夫妻で来県されました。演舞台では稚児流の、下の橋御門に移って福神流、大黒流、恵比須流の博多松離子の「言い立て」(祝いの口上)を受けられ、返礼として伝統の「一束一本」(半紙一束と白扇一本)を渡されました。

博多松離子は、筑前国統風土記や博多津要録、石城志、筑前名所図会、筑前歳時図記などの歴史書にも記述されており、その淵源は1179年(治承3年)に平重盛の恩に感謝することに始まったとされています。



会員クリック②



院信 加藤 芳子

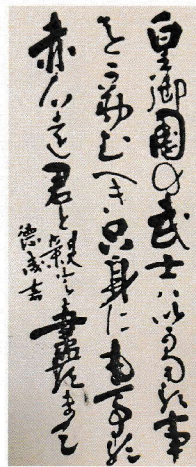
天保9年3月25日、城門の堀端で出生。加藤家十一代目家督を11歳で二千八百石の中老職の当主に列される。次男は、一万六千石(三奈木)黒田家で黒田二十四騎の一人である。

その後司書24歳で長崎警護の任に就き、幕府全権筒井正憲・川路聖謨・藩主長薄でロシア艦隊ブチャーチン中将の通商交渉を藩兵500余騎の指揮をして警固に尽力、更に長崎奉行水野忠篤、大沢安宅と協議しながら同艦隊を無事国外に立ち去らせ、異国との紛争を回避した功績は大である。

次に、長州征伐周旋のために活躍した。元治元年の池田屋事件、禁門の変、更に幕府は前尾張藩藩主徳川慶勝を総督として36藩を召集して長州討伐しようとし、戦化が拡大した。司書公は黒

田藩代表として参集、薩摩の西郷隆盛と共に恭順を条件に長州征伐の解兵に成功した。その喜びを広島の宿に於いて作ったのが今様である。

その後長州にいた五卿を太宰府延寿王院に迎えた。三条実美、四条隆謨、三条西季知、壬生基修、東久世通禧の5人を預かる。その後の尊皇運動の源地となる。



筑前今様

司書は外国船襲来の万一の非常事態に備えて犬鳴の山の、険しく幽谷が多いその地に築城し、要塞にして殿様を万一の時に備えた。この築城が誤解され、藩の佐幕派の重役に、司書に謀反ありと藩主に言上され、乙丑の獄の大弾圧となって司書は切腹を命ぜられた。司書は1865年10月25日にその生涯を終えた。司書公の霊は加藤家の菩提寺院信院に眠る。

東旭秀会員が田原坂で奉納演奏



田原坂で奉納演奏する東旭秀会員

4月30日、会員で筑前琵琶奏者の東旭秀さんが西南戦争最大の激戦地であった田原坂で明治維新の志士たちに捧げる鎮魂歌として慰霊塔に「秋風故郷の山」を捧げられました。福した。薩軍側に参加した岡から東旭秀さんを支援する藤香会会員を含む20名が参加いたしました。

慰霊塔うしろの銘板には西南の役で亡くなった人びとの名前が官軍・薩軍毎に出身県別に14,000名刻まられています。明治10年

3月20日に田原坂での戦いは多くの戦死者(全戦死者の4分の1の3,660名と言われています)を出して終わりました。福岡県からも多くの人が両軍に参加しました。薩軍側に参加した人の中に加藤堅武、武部小四郎の名前がありました。両名とも田原坂の戦いに呼応して田原坂の戦い最終後の3月28日に起こった「福岡の変」に参加して斬首されました。子孫の方が会員としておられます。

ちよっとうんちく

前回は福岡藩家老の立花平左衛門弾正が薦野にある先祖の濬源(しゅんげん)明神(丹治峯延)の925回忌の法要を執り行ったことを書きました。その続きです。

立花氏は「薦野家譜序」によると、「宣化天皇より里出 上殖葉皇子十市王 多治比古王尔至里 其名を以て姓として多治比乃姓を賜ふ」とあり、多治 丹治 丹比 丹埤も皆一族であると書かれています。

「式部少輔峯延 陽成帝の勅應して筑前國尔下里 糟屋郡薦野ノ邑尔住し」て薦野氏を称するようになります。その後大友に仕えて、立花道雪、宗茂、高橋紹運に属します。この頃から立花氏を名乗り、その後福岡藩に仕えます。幕末まで財務本メの家老として藩財政のために東奔西走しています。一方の宗茂は関ヶ原では西軍に属し、

徳川氏による旧領(柳河)復活まで時間が掛りました。西軍に属した大名の旧領復活の最初でした。

古文書講座の開設

本年10月から毎月第3木曜日午後6時より「博多町家ふるさと館」で古文書講座を行います。申し込みは9月30日までに。「博多町家ふるさと館」(092-281-7761)。

★新規入会員紹介

1. 一般会員
 - 平成29年12月 志間 久宜
 - 30年1月 伊丹 健二
 - 三輪明日香
2. 協賛会員
 - 平成30年6月末現在 51企業・団体

ホームページアドレス

<http://toukoukai-kuroda.com/>

藤香会

検索

編集後記

今回の会員クリックは幕末の乙丑の獄に倒れた加藤司書の末裔の加藤芳子さんにお願ひし、今までと違い司書公の業績のみを書いていたいただきました。